

第2回福井城址活用検討懇話会

日時：令和2年11月17日（火）10：00～12：00

場所：県庁6階 大会議室

1. 挨拶（西村座長）

- ・日本中の県庁所在地の都市を横並びにした本を3年前に書いたが、県・市庁舎と駅が一番近いということを福井の特色として感じた。これだけ近いのは福井と甲府くらいで、もう少し離れている都市も静岡くらいである。
- ・福井は非常にコンパクトに色々なものが中心に集まっていて、お城を考えることが都市全体を考えることに繋がるということを強く感じる。
- ・福井城は大きな道路が直接お堀に面していないという点も非常にユニークである。福井の場合は、4重5重にお堀があり、それを少しずつ埋めて市街化してきたため、大きな道路や車が中心のところというよりも、歩行者ネットワークの中に位置付けられている。
- ・今年来年で全体としての方向性をまとめるということなので、その間にアイデアを出し合ったり、アイデアを色々な立場の方からお聞きし、議論していきたい。

2. 議事

<1. 事務局報告>

「福井城址活用まちなか地区意見交換会 福井城址活用ワークショップの結果概要」

（多米委員のコメント）

[福井城址活用まちなか地区意見交換会に参加して]

- ・観光ボランティアガイドの方は、例えば、城址裏側の石垣が見所で、観光スポットとして案内したいと思っているが、現状では、駐輪場などがあるため見せることができないと言っていた。客を招くという立場からはそういった見方があるのだと思った。
- ・福井城復元VRアプリについては、歩いたらそこで何かものがもらえるような機能があると、子供たちも楽しめるのではないかという意見があったため、コンテンツを作って終わりではなく、それをいかに更新していくかも大事だと思った。

[福井城址活用ワークショップに参加して]

- ・参加者は非常に闊達に自分たちの意見を出していて、本当に真剣に考えてくださっているのだと感じた。比較的参加者の平均年齢が高かったことが残念。将来的な城址の利用者は若者なので、もう少し若者の参加があるとよい。

○主な意見

【若者の意見について】

- ・例えば、都市景観に興味がある学生と県がコラボして、その中で提案を募るワークショップを大学と連携して実施すれば、大学生や若者の声を聞きやすいかと思う。また、高校生や中学生が、福井城址の位置付けを学ぶ総合学習などを取り入れていくことが重要

だと思う。

- ・ 駅周辺に来る年齢層で一番多いのは実は高校生ではないか。平日は大学生が大学の課題などで駅周辺を調べていたりする。意見交換会やワークショップでは高校生などの若者の意見が一つもなかったので、彼らの意見をもう少し拾えると良い。
- ・ 若い方の意見を集める方法については事務局で今後工夫するように。

【その他】

- ・ バリアフリーの観点は非常に大事で、今後の具体化にあたり障がいのある方の参加も必要。インクルーシブ（みんな一緒）に多様な立場の人を加えてやっていく必要がある。
- ・ 回遊性の向上や案内表示の充実については、ただ案内を多く置けばよいというわけではなく、人の誘導にはデザイン性が非常に重要。

< 2. 福井城址活用に関するプレゼンテーション >

(福井城の復元をすすめる会)

[概要]

- ・ 本丸は基本的に櫓や土塀、門など福井城の様子をできるだけ忠実に再現し、昔の福井城を体感できるようにして、本丸御殿は部分的にでも再現してはどうか。復元後は、見学やイベント会場、活動・発表の場、観光用のお土産屋として活用してはどうか。中央公園についても、もう少し福井城の雰囲気味わえるような形で整備しながら、かつ、都市公園としての人の交流の場や、市民県民が集える場、災害時の避難場といった形で整備して欲しい。
- ・ まずは県庁線から見える坤櫓とそれに続く土塀を整備すれば、城址公園としての景観が整えられると思う。

○質疑応答

- ・ 中央公園の再整備後、市民意識の変化や観光の顔としての効果を感じているか。
⇒これまで、林のようにうっそうとしていた中央公園が綺麗に整備され、イベントが活発に行われるようになってきており、その点では評価している。ただ、御座所跡などが全くイメージできないので、もう少し積極的に西二の丸、三の丸をイメージした整備をして欲しい。
- ・ 福井城址の活用について、土地活用という点が前提にあることが少し寂しい。城という観点では、既存のものを活かすというところを大事にしてほしい。
- ・ 例えば、鳥取県の米子城は、福井城のように何か建物が建っているということではなく、石垣が見えるように間伐をして、ライトアップを行ったことが非常に好評で、女子高生や家族連れがとても増え、にぎわうようになった。三の丸の活用も行われ、史跡にも指定されることになった。石垣だけが残っている城でも充分にその個性を伝えることができるため、福井城と共通しているところを感じる。

(福井経済同友会)

[概要]

- ・現在は中心市街地外にコンベンション機能が偏っており、中心市街地での福井城ホールやマリオットホテルの整備により、その差を是正することができる。多様な方々が利用できる場所、求心力のある都市機能が福井城址に必要ではないかという意見があり、周囲に調和する外観、色合いといった要素を持つコンベンションホールが最もふさわしいという結論となった。

○質疑応答

- ・郊外に様々な大きい施設があることは一つの福井の特色である。耐用年数の関係で見直しの時期が来ているが、同じように郊外に建て、問題も引き継ぐのか、それとももう少し都心に戻ってくるのかは非常に大きな問題である。お城の跡をどう使うかとは別の話だが、非常に重要な課題であり、都心に一度こういう施設は戻すべきという主張は非常に説得力がある。
- ・福井城址に行った後に、その周りを歩けること、商業が活性化されていることがすぐ近くで働く者としては非常に大事。例えば、カフェがあれば自身の店に寄ってからカフェに寄るなどのつながりができるのではないか。
⇒女性に服を買ったらどうかと提案すると着ていくところ(着ていこうと思うおしゃれな場所)がないという言葉が返ってくる点をかなり重く捉えている。都会に出た若い女性が戻ってくる環境を作っていく必要がある。
- ・駅周辺に人の集まる場所が全くない状況で、ホールのなものが必要かなと思う反面、今の状況で箱物は非常に難しい。今後、ますます人が集まるということに懐疑的になっていく中で、長期的に人が戻ってくるのかという予測も大変難しいので、非常に慎重な議論が必要である。

(福井商工会議所)

[概要]

- ・この提言で最も強調したかったことは、県庁も福井市役所も中心市街地を構成する大切なコンテンツであり、まちづくりにおいてまちなかのにぎわいを構成するメンバーであるということ。福井城址、JR福井駅西口東口の商業地域、それに東公園を含めた広域的なゾーニングの視点が重要である。
- ・福井城址の公園化は、県庁や県警本部、県議会の移転を意味する。これら行政機関も含めた官公庁および民間ビジネスの形成という観点からは、東公園の活用も重要であり、あれだけの空間を有効活用しない手はない。

○質疑応答

- ・福井城址エリアについて、文化芸術を深めていくことには賛成である。箱を建てるという発想ではなく、文化芸術活動をする人は歴史と対話しながら作品を作るので、ソフトの面をもっと充実させていく必要がある。

⇒箱から始まってしまうとイメージが固定化するのでそれを打破していかないといけない。福井というまちは様々なことを大切にしてきたまちで、5G 6Gのような技術を背景として新しい考え方を示すこともできると思うので、チャレンジできる福井でありたい。

<議題3>

<3. 福井城址活用に関する意見交換>

- ・長期の話になった瞬間に、生活のイメージがなくなってしまうので、そのイメージを長期にもう少し入れ込んでいくとよい。コロナ禍等で価値観が大きく変わっていく現在においては、まちなかでどういう生活ができるかを踏まえたビジョンが必要で、そういった個別の議論（誰が、いつ、どう使うのか等）も懇話会の中で出来ると良い。
- ・若者の意見について、自身の体験の話だが、高校生の時に中央公園に大きいベンチやブランコのようなものがあり、家族連れや、放課後には高校生が集まっていた。このようなアート作品があると若い人、高校生であれば放課後に遊びに来るので、中央公園等に設置するとよいと思う。

(事務局)

- ・三つの報告は非常にわかりやすく特徴が出ていた。歴史の空間として元あった姿に戻すという考えと、都市の魅力活性化のためにどのような空間が必要か、どういう利用が必要かという話、商工会議所は間をとった形で、いずれにしてもこの城址は、福井の歴史を感じられる空間という非常に大事な特徴があるので、維持しなければならないと思っている。
- ・冒頭で出た若い方々の意見を伺っていくという点については、県内に六つの大学でPBL（地域に出て大学連携のもと頑張っていこうという取組み）も始めているので、ぜひ県と大学のコラボレーションの中で意見を実現できるよう、関係部局と調整したい。
- ・学生によるフィールドワーク、さらに付近を多く通る高校生たちにどのように意見を聞くかはさらにリサーチを続けていきたい。今後の進め方については、委員各位とよく相談をしながら、今年度内にもう一度懇話会を開催し、さらに議論を深めていきたい。

(以上)